

令和元年6月13日現在

機関番号：32511

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K01166

研究課題名(和文) 幕末から明治期における地域医療研究 ～岡山県邑久郡の中島家をもとに～

研究課題名(英文) Community Medicine before and after the Meiji Restoration; the study of Nakashima doctor family in Oku County, Okayama Prefecture.

研究代表者

松村 紀明 (MATSUMURA, Noriaki)

帝京平成大学・ヒューマンケア学部・講師

研究者番号：00422379

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：幕末～明治初期にかけての中島家(＝在村医)の医療活動について、特に次の6つの点で研究成果があった。在村医の診療圏の2次元的視点からの解明、岡山藩医学館(＝教育機関・公衆衛生機関)の活動についての在村医の視点からの解明、揺籃期の近代医学教育システムの在村医の視点からの解明、漢学者による知的ネットワークと在村医の関係についての解明、在村医による広域・組織的な製売薬活動の内容の解明、軍医としての在村医の活動の解明である。

これらの研究成果は、論文・学会発表・図書に加え、中島医家資料館における展示活動やWebサイト(<http://nakashima-ika.jp>)でも公開している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療教育や実務の現場において現代日本の地域医療の議論をする際には、主に近代西欧社会学・医療社会学の延長線上で議論がなされている一方で、日本の明治期以前の地域医療についての研究とその成果はほとんど視野に入っていない。しかしながら、幕末から明治初期という日本の医療制度・医学教育システムの転換・過渡期において(そしてそれ以降も)、それらを支えたのは各地に存在した在村医たちである。本研究プロジェクトは、幕末から明治にかけての在村医・中島家の活動を立体的に明らかにし、現在につながる日本の地域医療の歴史的特質を明らかにしようというものである。

研究成果の概要(英文)：The research achievements about the medical activities of Nakashima family before and after the Meiji Restoration are as follows. The spread of the medical area of the family, the relationship between the medical training place founded by Okayama-Han (Okayama-Han Igakkan 岡山藩医学館) and the family, the relationship between the medical education system in early Meiji era and the family, the relationship between the intellectual network by scholars of Chinese classics and the family, the activity of making and selling medicines by the family, and the activities of the family as military doctors, are revealed. You can see these research achievements also on the website(<http://nakashima-ika.jp>).

研究分野：医学史

キーワード：中島家 在村医 地域医療 医学教育 岡山藩医学館 製売薬 漢蘭折中 漢学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、医療行政の分野のニュース・書籍において「在宅医療」という言葉をたびたび目にする。

その背景には、死生学の勃興や患者の権利に関する議論に呼応した、末期患者の「病院ではなく家庭で家族に囲まれた状態で死を迎えたい」、慢性患者の「家庭において療養したい」という素朴な声があるのは論を待たない。この点をふまえると「在宅医療」とは住み慣れた地域で必要な医療・介護サービスを受けつつ安心して自分らしい生活を実現するというものであり、それぞれの地域社会の特性に応じた「地域医療」が成立していることが前提である。

しかるに、現在の医療従事者教育の現場で用いられているテキストなどにおいて、医療と社会の関係を議論する際に援用されている理論は、典型的な近代西欧社会学のそれであり、典型的なものは、近代以降の社会や組織の性格を考える上で広く受け容れられているテンニースが唱えた対概念「ゲマインシャフト」と「ゲゼルシャフト」である。さらに近代以前の医療システムや社会保障の歴史において常に言及されるのは西欧社会におけるそれであり、日本のそれらについての記述は明治あるいはそれ以降の記述から始まるのが常である。

すなわち、日本の実際の医療教育や実務の現場では日本の地域医療の議論をする際に、近代西欧社会学の延長線上で現代医療についての議論がなされているのである。逆に、明治期以前の地域医療についての研究は、医療制度史、蘭学(洋学)史、郷土史、在村医などの側面から、まだはじまったばかりでありなされているおり、日本の実際の医療教育や実務の現場では、明治期以前の地域医療についての研究とその成果は全く視野に入っていない。

もちろん現在の日本の医療体制は明治初期における西洋医療システムの導入によって成立しており、江戸期の医療体制とは大きく異なることは否定できない。しかしながら、明治時代の前半まで地域医療を支えたのは、新しい教育システムや免許制度が導入される前に医療活動を始めていた旧時代の医師たちであった。つまり、明治期以降においても、江戸期の地域医療の体制は大きな影響を与えているのである。ここに、近代以前の地域医療を支えた医家を研究する意義が見いだされるのである。

2. 研究の目的

本研究は、「江戸時代における地域医療研究～岡山県邑久郡の中島家をもとに～」(JSPS 科研費 23501206・基盤研究 C)の手法と成果を継承し、次の2つの歴史的な視点から日本の地域医療の特徴を解明するのが目的である。

- ・近世から近代(特に幕末から明治初期)の地域社会において、その地域の医療を支えた「在村医」の活動内容や地域内での位置づけはどのようなものであったのか。
- ・それらは、時代の流れとともに(特に明治維新前後において)どのように変遷していったのか。

以上の問題を、岡山県瀬戸内市において、江戸時代から現在に至るまで地域医療を支えてきた医家・中島家に所蔵されている医療記録・医療書籍・器機類などに基づいて明らかにする。

3. 研究の方法

まず、中島家に残されている刊本・写本・医療記録・手紙などの史料のなかで、先行する科研費プロジェクト(前述)では調査対象ではなかった幕末以降の史料を中心に分類・整理を行い、優先度の高いものから解読・翻刻作業を行った。その上で、それらを元に中島家においてどのような医療活動が行われたのか、詳細を明らかにした。

具体的には、事業期間中、本研究プロジェクトの構成員(代表者・分担者だけでなく、協力者も含む)が各年数回程度の現地調査を行い、資料の確認とデジタル撮影を行った。そして、各員が持ち帰った撮影資料の解読・翻刻作業を行い、東京あるいは岡山で各年1～2回の研究会を開催し、それらの情報を共有し研究過程の相互報告・検討を行った。

その過程において、幕末から明治期の医療活動の変遷を引き起こした「内的要因」「地域内的要因」「地域外的要因」を明らかにする為に、中島家内部の複数の史料を相互に、あるいは岡山県の郷土資料などとも突き合わせることに留意した。

4. 研究成果

まず中島家(中島医家資料館)に所蔵されている史料の中で、以下の重要性の高い史料についての解読や翻刻などの作業を行った。

- (1)『中島姓一統家系』
- (2)『胎産新書』
- (3)売薬能書板木
- (4)岡山藩医学館関連の資料
- (5)岡山県医学校在籍時の中島一太に関する資料
- (6)岡山の漢学者関連の資料
- (7)中島一太関連の軍事郵便資料

(1)は、中島家累代の姻戚関係・医学修行・医療活動について書かれている、中島家の研究における基礎史料とも呼べるものであり、以前からある程度の調査は行われていたが、今回再度調査・翻刻を行った。(2)は、難波抱節の産科書であり、中島家だけでなく同時代の産科

研究を行うための基礎史料である。(3)は、幕末～明治初期にかけて中島家が岡山県下で行っていた広域・組織的な製売薬活動の内容を明らかにするための基礎史料である。(4)は、中島家に残されている岡山藩医学館の入学時の記録や附属機関による医療活動(種痘活動)に関する記録などである。(5)は、中島一太が岡山県医学校に在籍していた際の史料である。(6)は、明治～大正期における中島家所蔵の岡山の漢文学者関係の史料であり、当時の知的ネットワークを知るための史料である。

先行する科研費プロジェクトや上記の(1)～(6)で解読・翻刻された中島家の所蔵史料や、岡山県の郷土資料とを相互に突き合わせ検討分析することにより、幕末～明治初期にかけての在村医としての中島家の医療活動について、特に次の6つの点で研究成果があった。

- (イ) 中島家の診療圏
- (ロ) 中島家と岡山藩医学館との関係
- (ハ) 中島家と明治初期の岡山における医学教育
- (ニ) 中島家と漢学者による知的ネットワーク
- (ホ) 中島家の幕末～明治初期の製売薬活動
- (ヘ) 中島一太の軍医としての活動

(イ)は、在村医の医療活動の当該地域における2次元的視点からの解明である。(ロ)は、教育機関でもあり公衆衛生機関でもあった岡山藩医学館の活動の在村医の視点からの解明である。(ハ)は、揺籃期における近代的な医学教育システムの在村医の視点からの解明である。(ニ)は、当時漢学は基本的素養であったが、その漢学者による知的ネットワークと在村医の関係についての解明である。(ホ)は、在村医による広域・組織的な製売薬活動の内容の解明である。(ヘ)は、当時の多くの医師が軍医として活動したが、その解明である。

これらの研究成果の詳細については、後述の論文・学会発表・著作などとして報告・公開しているが、これに加えて、中島醫家資料館(中島医家資料館)における展示活動や、同資料館のWebサイト(<http://nakashima-ika.jpn.org>)でも、一般に向け公開し社会に還元していることを申し添えておきたい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計10件)

木下浩

中島家の医療4部門における患者の分布について

中島醫家資料研究(中島医家資料研究)

第1巻第2号、2019年、3-30 ページ

査読なし

オープンアクセスとしている(<http://nakashima-ika.jpn.org/study.html>)

町泉寿郎

中島家所蔵の漢学者関係文書の紹介—奥村竹亭、日下部鳴鶴、長尾雨山、永阪石タイ(土扁に隶)、

西薇山、山本竟山、山本梅崖、梁啓超ほか—

中島醫家資料研究(中島医家資料研究)

第1巻第2号、2019年、31-43 ページ

査読なし

オープンアクセスとしている(<http://nakashima-ika.jpn.org/study.html>)

平崎真右

『中島姓一統家系』「中島姓之由来」～「三ノ神子之系」

中島醫家資料研究(中島医家資料研究)

第1巻第2号、2019年、44-54 ページ

査読なし

オープンアクセスとしている(<http://nakashima-ika.jpn.org/study.html>)

松村紀明

『中島姓一統家系』「本家ノ系」～「和吉家系」

中島醫家資料研究(中島医家資料研究)

第1巻第2号、2019年、55-69 ページ

査読なし

オープンアクセスとしている(<http://nakashima-ika.jpn.org/study.html>)

清水信子

中島醫家資料館所蔵『胎産新書』解題・翻刻(1)

中島醫家資料研究(中島医家資料研究)

第1巻第2号、2019年、70-82 ページ

査読なし

オープンアクセスとしている (<http://nakashima-ika.jpn.org/study.html>)

松村紀明

「開業医」という視点の豊穡性について

中島醫家資料研究(中島医家資料研究)

第1巻第1号、2018年、89-94 ページ

査読なし

オープンアクセスとしている (<http://nakashima-ika.jpn.org/study.html>)

町泉寿郎

岡山県医学校(第三高等学校医学部)在籍時の中島一太に関する資料の紹介

中島醫家資料研究(中島医家資料研究)

第1巻第1号、2018年、74-79 ページ

査読なし

オープンアクセスとしている (<http://nakashima-ika.jpn.org/study.html>)

梶谷真司

中島家の売薬能書板木の翻刻

中島醫家資料研究(中島医家資料研究)

第1巻第1号、2018年、43-73 ページ

査読なし

オープンアクセスとしている (<http://nakashima-ika.jpn.org/study.html>)

平崎真右

戦時下の郵便メディアー中島一太関連「軍事郵便」を中心にー

中島醫家資料研究(中島医家資料研究)

第1巻第1号、2018年、27-42 ページ

査読なし

オープンアクセスとしている (<http://nakashima-ika.jpn.org/study.html>)

Erin Kitagawara

The Nakashima Family Collection and its State of Research

中島醫家資料研究(中島医家資料研究)

第1巻第1号、2018年、80-88 ページ

査読なし

オープンアクセスとしている (<http://nakashima-ika.jpn.org/study.html>)

[学会発表](計4件)

松村紀明

江戸時代の地域医療～備前岡山の在村医・中島家から～

明治大学リバティールアカデミー(招待講演)

2018年11月17日

松村紀明

江戸時代の地域医療～備前岡山の在村医・中島家から～

明治大学リバティールアカデミー(招待講演)

2017年10月14日

松村紀明

岡山藩医学館にみる漢蘭「折衷」と医療統制

「漢蘭折衷に関する総合的研究」シンポジウム(招待講演)

2017年03月10日

二松學舎大学・九段キャンパス

町泉寿郎

近世の医学塾からみる漢蘭折衷医学の総合的研究の成果と課題

「漢蘭折衷に関する総合的研究」シンポジウム(招待講演)

2017年03月10日

二松學舎大学・九段キャンパス

〔図書〕(計3件)

洋学史学会
思文閣出版
洋学史研究事典
2021年(予定)
450ページ程度(予定)

町泉寿郎(編)
戎光祥出版
漢方と医学
2019年(予定)
総ページ数未定

坂井建雄(編)
法政大学出版局
医学教育の歴史
2019年
600ページ

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
中島醫家資料館(中島医家資料館) <http://nakashima-ika.jpn.org>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：町 泉寿郎
ローマ字氏名：MACHI, Senjuro
所属研究機関名：二松學舎大學
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：40301733

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：中島 洋一
ローマ字氏名：NAKASHIMA, Youichi

研究協力者氏名：酒井 シツ

ローマ字氏名：SAKAI, Shidu

研究協力者氏名：木下 浩

ローマ字氏名：KINOSHITA, Hiroshi

研究協力者氏名：梶谷 真司

ローマ字氏名：KAJITANI, Shinji

研究協力者氏名：清水 信子

ローマ字氏名：SHIMIZU, Nobuko

研究協力者氏名：平崎 真右

ローマ字氏名：HIRASAKI, Masaki

研究協力者氏名：北川原 慧林

ローマ字氏名：KITAGAWARA, Erin

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。